

子（小中学生）が生成AIを学習に利用することへの親の考え

水野 一成（NTTドコモ モバイル社会研究所）
近藤 勢津子（NTTドコモ モバイル社会研究所）

多くの小中学生は、GIGAスクール構想及びスマートフォンの所有低年齢化等により、タブレットやスマートフォンなどの情報機器を利用している。また、情報機器を利用し、生成AIの利用も増えている。そうした中、文部科学省は「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン（Ver. 2.0）」を2025年12月に公表した。生成AIの利用には親の同意が必要であること、また今後家庭での学習に生成AIを利用することが広がるかもしれないことから、親は子が生成AIを学習に利用することについて、関わることも増える可能性がある。本稿では、子が生成AIを学習で利用することに対し、親はどのような考えを持っているか、親の生成AIの理解と合わせて分析した。その結果、親が生成AIを理解していない場合、子が生成AIを利用することへ「わからない」と答える傾向が、また生成AIを理解している親の中で、学習への効果を期待する親は「賛成」、効果を期待できない親は「反対」の傾向であることが明らかになった。

キーワード：生成AI、親、学習、定量調査

1. 研究の背景・目的

GIGAスクール構想が始まり、多くの小中学生がタブレットやパソコンなどの情報機器を利用し、学習を行っている。また、スマートフォンの利用率も年々上昇しており、学校外でもインターネットにアクセスをしている。2024年11月に実査した結果では、何かしらの情報機器を利用している児童・生徒の割合は、小学生低学年で93.8%、高学年は97.0%、中学生になると98.6%と多い（図1）。また、普段から疑問に思ったことを検索する習慣が付いている生徒を中心に、生成AIを利用しており、利用率も上昇している。

また、文部科学省は「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン（Ver. 2.0）」を2025年12月に公表した。その中には発達段階や情報活用能力に留意しつつ、学習活動での具体的な利活用が例示された。佐々木（2025）によると生成AIの学習への利用は批判的思考と主体的な学び（学習観が能動的な生徒の場合）を促す可能性が示唆されている。また田中（2024）は、生成AIを利用することにより生徒が新しい知識とスキルを獲得し、独自の創造的な解決策を発見するプラットフォームになると言っている。

生成AIの利用には、年齢制限や親の同意が必要なサービスもある。今後、学校での生成AIの利用が広まる時、親の理解も重要となる。では、小中学生の親は子が学習に生成AIを利用することにどのような考えを持っているか、2024年11月に調査をおこなった結果から考察する。

2. 研究概要

調査対象：2024年11月

調査対象：全国、小中学生の親

調査方法：訪問留置法

標本抽出法：QUOTA SAMPLING

性別・学年・地域・都市規模で割付

回答数：1,300組

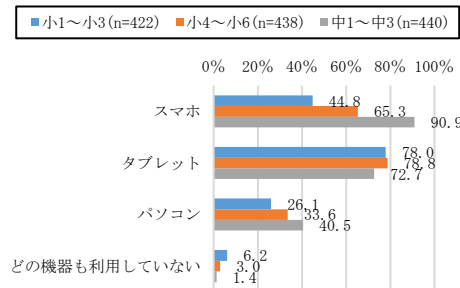


図1 情報機器の利用率

3. 調査結果

3.1. 子が生成AIを学習ですることへの親の賛否

親に子が生成AIを学習で利用することに対する賛否を5件（賛成・やや賛成・やや反対・反対・わからない）で聞いた。その結果、図2の通り、賛成（やや賛成を含む）は40.1%、反対（やや反対を含む）は25.7%、わからないは34.2%であった。

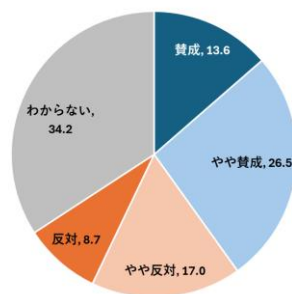


図2 子が生成AIを学習で利用することへの賛否

3.2. 親の生成AIの理解

次に親自身が生成AIについてどの程度理解しているか4件法（聞いたこともあり、理解もしている・聞いたことがあり、なんとなく理解している・聞いたことはあるが、理解していない・聞いたことはない）で調査した結果、理解している人（なんとなく理解している人を含め）は53.9%でした。理解していない人は36.8%、聞いたことがない人は9.3%となった（図3）。

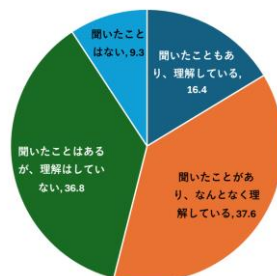


図3 親の生成AIへの理解

3.3. 子が生成AIを学習ですることへの親の賛否

3.1の結果と3.2の結果をクロスし集計したものが図4である。生成AIを「理解している」「なんとなく理解している」親は、子が生成AIを学習で利用することに、わからない割合が少なく、賛成もしくは反対どちらかに回答した割合が多い。生成AIを「聞いたことがない」親は、子が生成AIを学習で利用することに、わからないと回答した割合が多く、75%であった。このように、子が生成AIを学習で利用することに「賛成・反対」と「わからない」において、親の生成AIの理解度の間に関連が見られた。

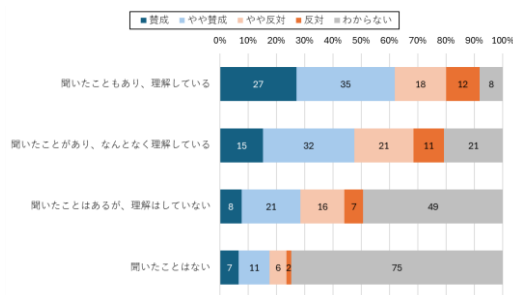


図4 子が生成AIを学習で利用することへの賛否と親の生成AIの理解

表 1 親の生成AI理解と属性

		n	理解している人の割合(%)	p 値
居住地域の都市規模	政令市及び特別区	360	58.6	
	20万以上市	330	54.8	
	10万以上市	230	50.9	
	10万未満	376	50.5	
居住地域	北海道・東北	140	45.7	
	関東	429	59.2	
	北陸・甲信越	80	45.0	
	東海	170	59.4	
	近畿	209	50.2	
	中国・四国	108	53.7	
	九州・沖縄	160	50.6	
性別	男性	204	66.7	<.001***
	女性	1092	51.6	
年代	30歳未満	17	47.1	0.028**
	30～34歳	89	48.3	
	35～39歳	285	49.5	
	40～44歳	461	53.8	
	45～49歳	321	55.8	
	50歳以上	118	66.1	

表 2 親の生成AI理解と学歴・世帯年収・職業

		n	理解している人の割合(%)	p 値
学歴	中学校	55	49.1	0.046*
	高等学校	406	44.8	
	短大・専門学校・各種学校	467	51.8	
	大学・大学院	364	67.6	
世帯年収	400万未満	162	42.6	<0.001***
	700万未満	374	53.2	
	1000万未満	282	55.3	
	1000万以上	138	73.9	
	わからない/答えたくない	340	50.9	
職業	正規社員	470	60.2	0.023**
	自営業・自由業	82	64.6	
	パート・アルバイト	540	49.1	
	専業主夫・主婦・無職	197	48.2	

3.4. 生成AIを理解している親の特性

生成AIを理解している親の特性を分析した結果を表1及び表2に示す。表1は主に属性である。居住地域や居住地域の都市規模による差は見られなかったが、男女差は大きく、男性（父親）が高く、66.7%が理解していると答えた。

表2では学歴・世帯年収・職業で理解している割合を見た。生成AIを理解している割合が高い親は、大学・大学院卒、世帯年収が多く、正規社員或いは自営業・自由業であった。この学歴・世帯収入・職業さらに、性別の間の相関が高い。

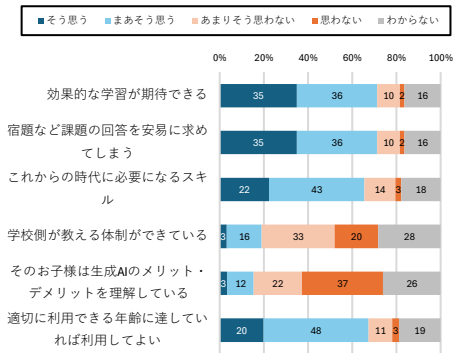


図 4 子が生成AIを学習することへの親の考え

3.5. 子が生成AIを学習することへの親の考え

子が生成AIを学習することへの親の考えを5件法で調査した。その結果、図4の通り、「効果的な学習」や「宿題など課題の回答を安易に求めてしまう」「これからの時代に必要なスキル」「適切に利用できる年齢に達していれば利用してよい」に対し、そう思う（まあそう思うを含む）と回答した親の割合は6割を超えた。また、「学校側の体制ができていない」「我が子が生成AIのメリット・デメリットを理解している」と回答したのは2割程度であった。

3.6. 子が生成AIを学習することへの親の考えと子が学習に生成AIを利用することへの親の賛否

3.1の結果と3.5の結果を合わせて見たのが図5である。学習に生成AIを利用することへの賛成の親と反対の親で差が特に大きかったのは「学習効果への期待」や「これからの時代に必要」「適切に利用できる年齢に達していれば利用してよい」であった。

またあまり差が見られなかったのは「宿題など課題の回答を安易に求めてしまう」であった。

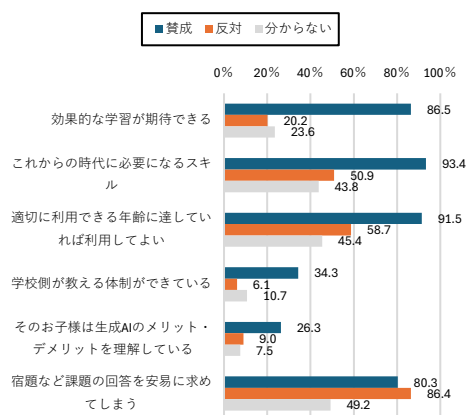


図5 子が生成AIを学習することへの親の考え

4. 考察

本稿においては、子が生成AIの学習に利用することへ「賛成・反対」と「わからない」を分けるのに、親の生成AIへの理解が関連していたことが明らかになった。また、生成AIを理解している親の特性として、大学・大学院卒、世帯年収が多く、正規社員或いは自営業・自由業であった。今後、社会全体で生成AIの理解が進むと、子が生成AIの学習に利用することに「わからない」と答える割合が減る可能性がある。

また、子が生成AIの学習に利用することへ「賛成」と「反対」に分かれたことと、生成AIを学習に使うことに「学習効果への期待」「これからの時代に必要」との関連が高かった。子どもが生成AIを学習に使うシーンが具体的にイメージをでき、理解が進むと「賛成」が増える可能性がある。また、賛成・反対問わず、「安易に答えを求める」といった不安への回答は多い結果であった。初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドラインにも記載してあるが、「情報モラル教育」の中で、生成AIの仕組み、メリット・デメリットを児童・生徒に教えていくこと、さらにそうした取り組みをしていることを保護者に伝えてい

くことが不安の解消に繋がるのではないだろうか。

参考文献

- NTTドコモ モバイル社会研究所 (2025) 小中学生の生成AIの利用,
<https://www.mobaken.jp/project/children/kodomo20250218.html> (参照日 2025. 06. 25)
- 佐々木 (2025) 中学生の社会科授業における生成AI「Gemini」活用の実践報告：批判的思考と主体的な学びを促す可能性. 弘前大学教育学部研究紀要, 29号: 59-69
- 田中 (2024) 生成 AI を生徒が探究的な学習において活用する学習方法に関する一考察. 早稲田大学大学院教育学研究科紀要, 第34号: 33-44
- 水野 一成, 近藤 勢津子 (2025) 中学生で生成AIを利用している子の特性, 日本教育工学会研究報告集/2025 巻 (2025) 1号, pp. 102-105
- 文部科学省 (2025) 初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン (Ver2.0),
https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_001.pdf (参照日 2025.04.15)

Parents' Thoughts on Their Children's (elementary and middle school students') Use of Generative AI for Learning

KAZUNARI MIZUNO (NTT DOCOMO Mobile Society Research Institute)

SETSU KO KODOU (NTT DOCOMO Mobile Society Research Institute)